

夏秋野菜等の需要に応じた生産の推進について (令和7年度夏秋野菜等の需給ガイドライン)

令和6年12月

農林水産省農産局園芸作物課

野菜価格安定制度における計画生産・計画出荷の仕組み

- 需要に即した計画的な生産・出荷を推進するため、国は指定野菜について概ね5年ごとに需要及び供給の見通しを策定するとともに、年2回(冬春・夏秋)需給ガイドラインを策定。この需給ガイドラインを目安として、出荷団体等は、供給計画を作成し、計画に即した野菜の出荷に努める仕組み。
- 供給計画に即した出荷がなされるよう、指定野菜価格安定対策事業においては、供給計画と出荷実績との乖離度に応じて生産者補給交付金を減額する措置のほか、前年度の価格低落時における需給調整の取組実績等に応じて補填率に差を設ける措置を導入。

需要及び供給の見通し(国)

(概ね5年ごとに策定)

指定野菜の種別ごとに、概ね5年後の需要量、供給量、国内産供給量の見通しを策定

需給ガイドライン(国)

(毎年、6月:冬春野菜、12月:夏秋野菜に策定)

直近の需給動向等を踏まえ、種別ごとに次期作の需要量、供給量、国内産供給量の見通し、作付面積の指標を策定

供給計画(出荷団体等)

需給ガイドラインを目安とし、種別ごとに年2回策定(播種・定植前の当初計画、出荷前の確定計画)

指定野菜価格安定対策事業における措置

① 供給計画の作成を加入要件とする(契約野菜収入確保モデル事業を除く)

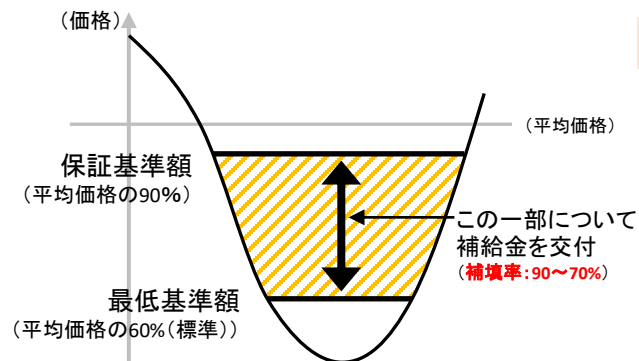
② 供給計画と出荷実績との乖離度に応じて交付金を減額

＜供給計画と出荷実績の乖離度合い＞

～	△60%	△50%	△40%	△30%	△20%	0	+20%	+30%	+40%	+50%	+60%	～
減額率 60%	減額率 50%	減額率 40%	減額率 30%	減額率 20%	減額なし		減額率 20%	減額率 30%	減額率 40%	減額率 50%	減額率 60%	

※ ±20%から±60%まで±10%間隔で乖離度合いを区分し、減額率は0～60%。

③ 過去3年の供給計画と出荷実績の乖離度や、緊急需給調整事業の取組実績等に応じて、生産者補給交付金の補填率を設定



補填率90%(産地区分Ⅰ)となる場合

以下の①・②の両方を満たす出荷団体

- ① 次のa又はbに該当すること
a. 産地強化計画(加工・業務用推進タイプ)を策定
b. 産地強化計画を策定し、直近3か年の計画的出荷割合が基準を満たす※
- ② 前年度において、対象品目の価格が緊急需給調整事業の発動価格以下となった際、対象品目の出荷があり、かつ、緊急需給調整事業を実施したこと

※ 直近3年の各年の計画的出荷割合 < 120/100、かつ、計画的出荷割合の直近3年平均 < 110/100

令和7年度夏秋野菜等の需給ガイドライン(概要)

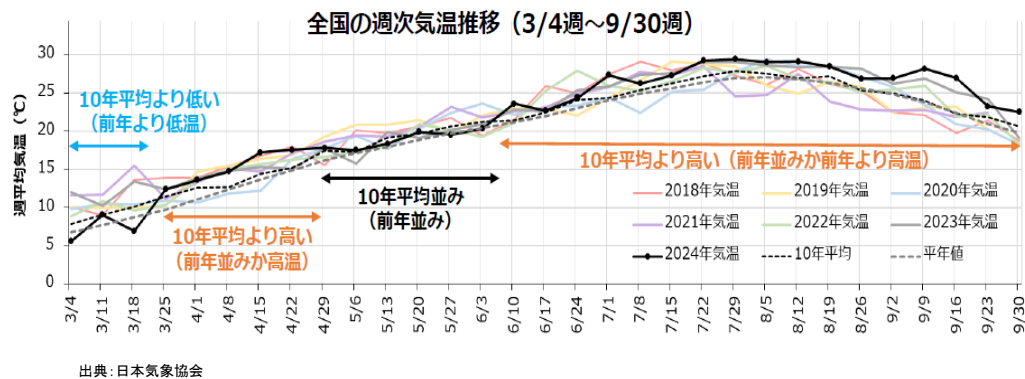
- 需給動向や人口、単収等のすう勢を基に、有識者の意見も踏まえつつ、指定野菜に係る「需給ガイドライン」を策定。
- 令和7年度夏秋野菜等の需給ガイドラインでは、多くの品目で供給量が減少していることを踏まえ需要に応じた生産に向けて、直近作付実績に近いまたは上回る作付面積の指標を提示。なお、夏秋キャベツ、夏秋レタスなどの一部品目について近年、複数年連続で緊急需給調整事業が発動していた経緯から直近作付面積実績よりも低い作付面積の指標を提示。

種別等	需要量 (t)	供給量 (t)	国内産供給量 (t)	作付面積 (ha)	直近年作付実績比	
					直近年作付実績比	前年度ガイドライン比
夏秋キャベツ	339,000	480,500	475,700	9,700	95.1%	100.0%
夏秋きゅうり	241,300	264,800	255,300	7,190	103.3%	100.0%
秋冬さといも	130,000	164,500	130,000	9,600	100.0%	95.0%
夏だいこん	176,900	209,100	205,200	5,200	100.6%	98.3%
夏秋トマト	242,200	290,400	293,200	6,940	103.3%	99.9%
	うち大玉	195,200	234,100	5,420	103.8%	100.0%
	うちミニ	47,000	56,300	1,520	101.3%	99.3%
夏秋なす	149,800	173,300	172,500	6,690	100.0%	96.7%
秋にんじん	242,500	265,900	187,500	5,020	100.0%	98.0%
秋冬ねぎ	195,400	285,100	266,800	13,600	101.5%	100.0%
夏はくさい	128,800	161,200	160,800	2,240	100.0%	96.6%
夏秋ピーマン	63,500	78,600	68,600	2,260	107.1%	101.8%
夏秋レタス	202,100	248,500	247,600	8,110	96.7%	100.7%

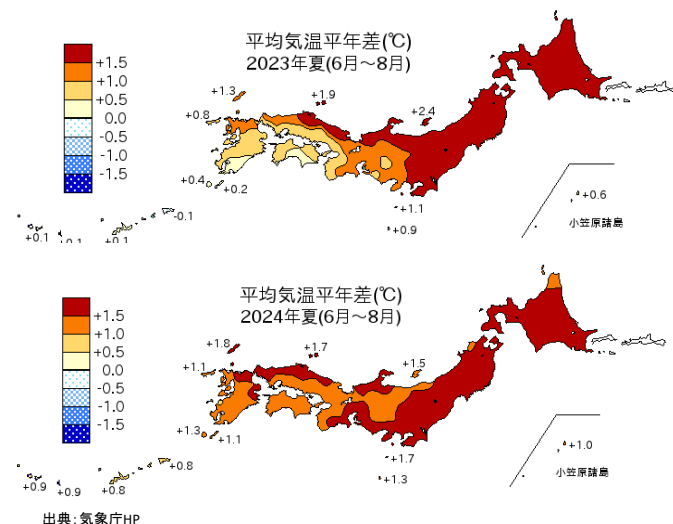
夏季の高温について

- 令和6年は6月以降、全国的に高い気温で推移。令和5年、6年においては、真夏日、猛暑日の観測日数も多く全国的にも気温上昇が顕著となっている。
- 世界的に見ても年平均気温が上昇トレンドにあることから、安定供給に向けた検討が必要。

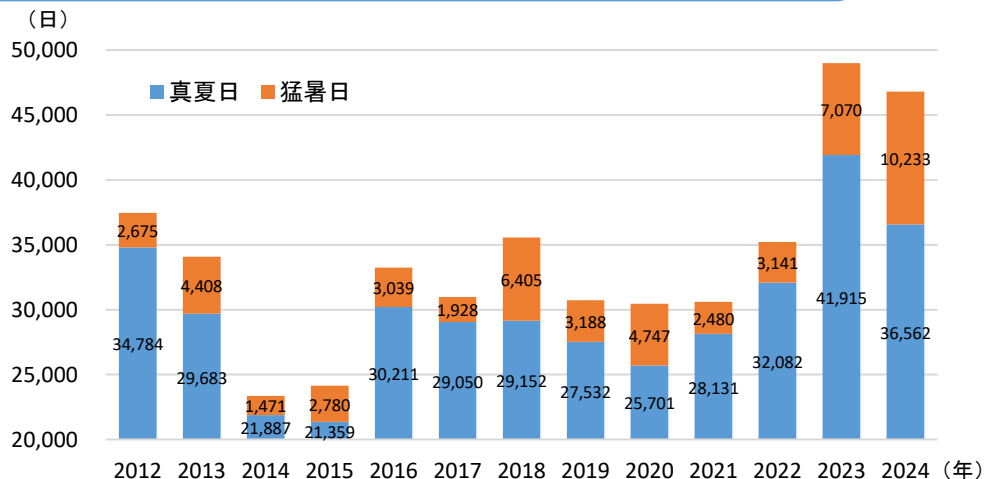
令和6年における全国の週次気温推移



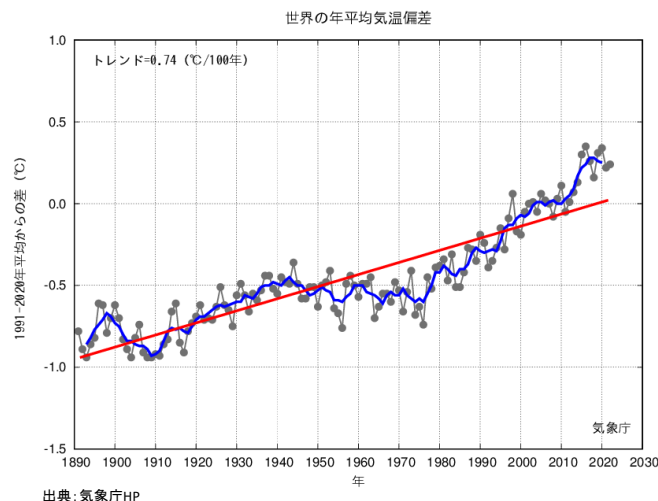
平均気温平年差の分布 (2023年 (令和5年)、2024年 (令和6年))



全国アメダス観測地点における真夏日、猛暑日の観測地点数(7～9月)



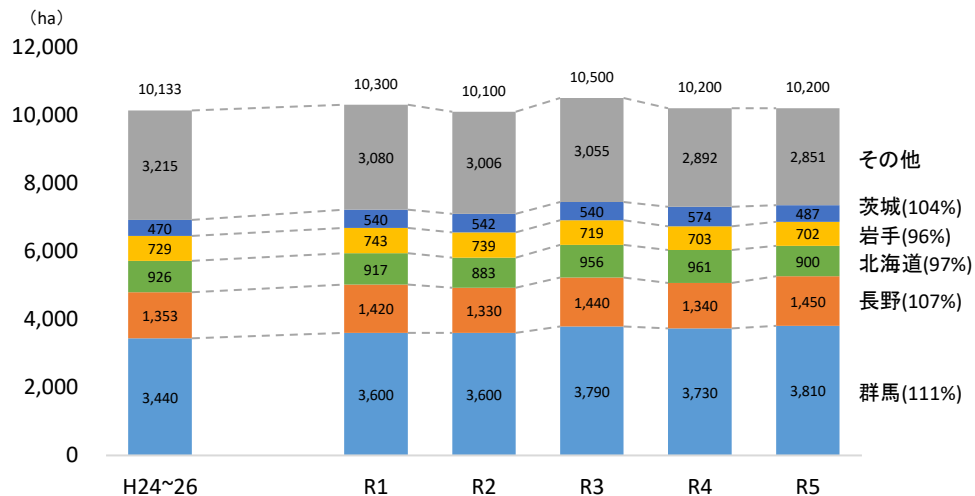
世界の年平均気温偏差の経年変化(1891～2023年)



夏秋キャベツの生産・価格等動向①

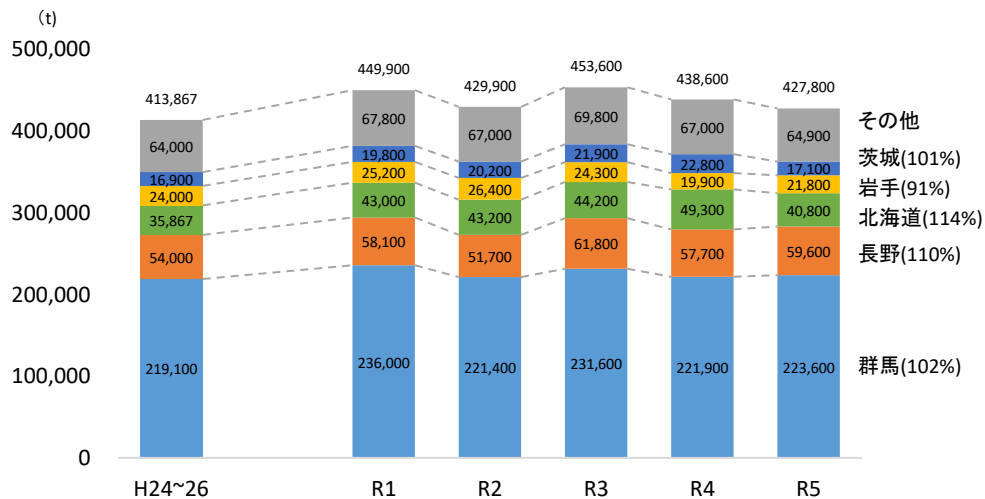
- 群馬県産が全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は横ばいで、全体出荷量はやや増加。
- 輸入は国内産供給量と比較するとごく少量で、国産の不作による不足分を補うため主に中国から輸入されている。

1. 作付面積の推移



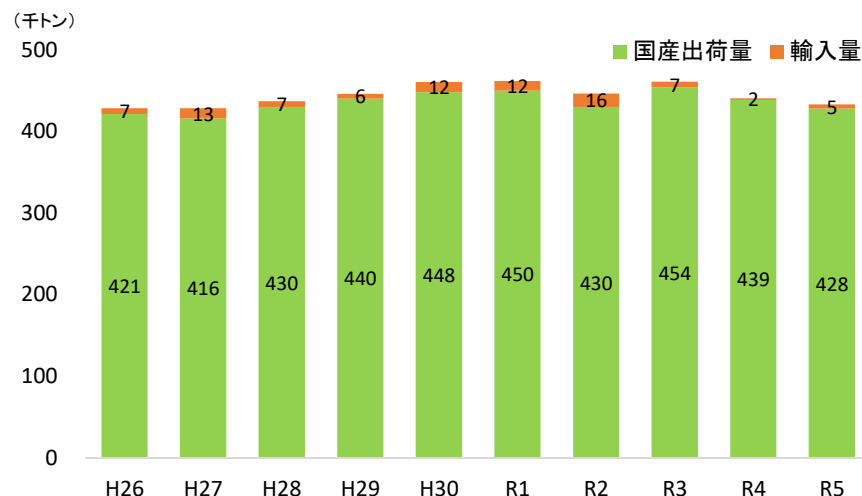
出典：野菜生産出荷統計

2. 出荷量の推移



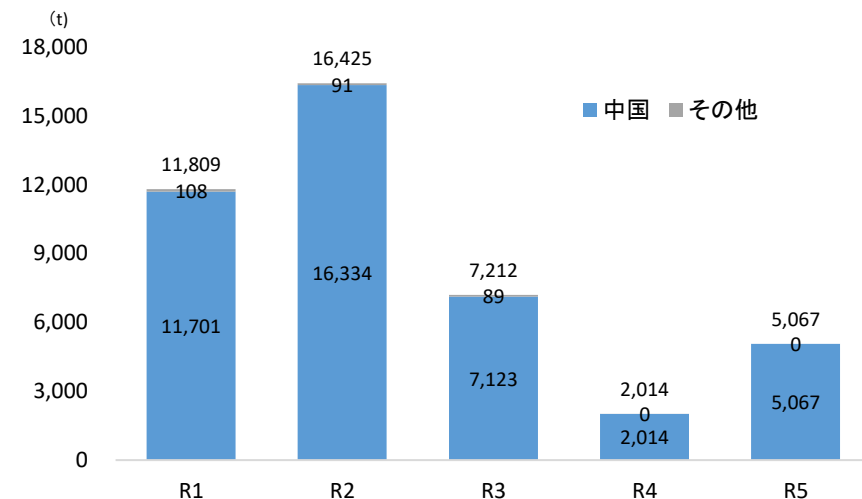
出典：野菜生産出荷統計

3. 出荷量と輸入量



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

4. 輸入先国の内訳

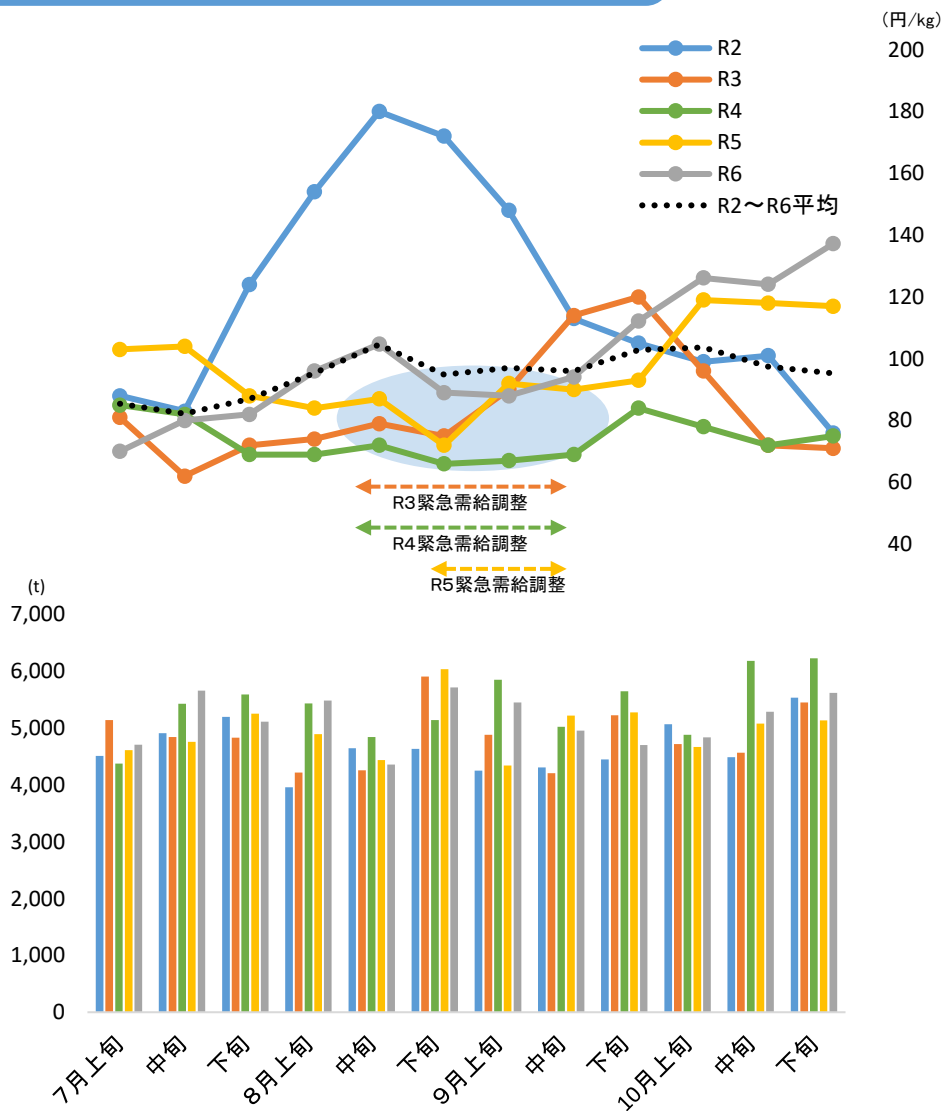


出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

夏秋キャベツの生産・価格等動向②

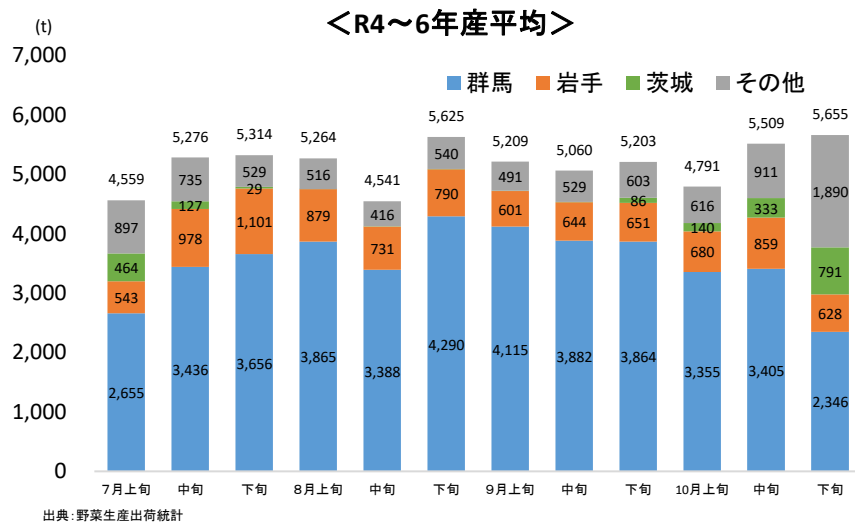
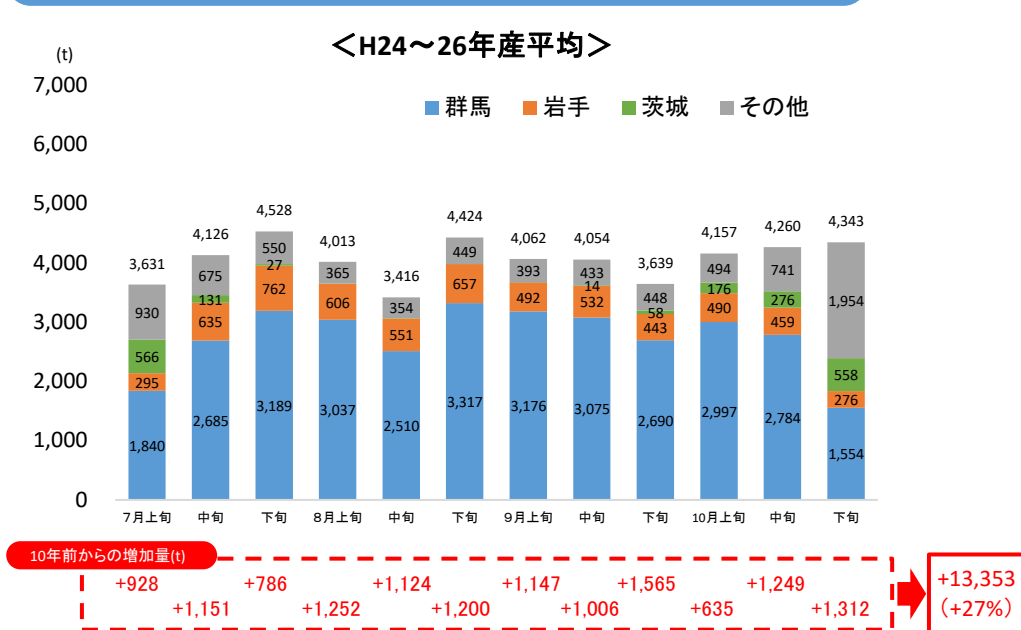
- 令和3年～5年は8月から9月にかけて価格が低迷し、3年連続で緊急需給調整事業を発動。
- 令和5年および6年は10月以降、夏場の高温等により、出荷量が減少し、高値となった。夏秋キャベツと冬キャベツの端境の安定供給が課題。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：青果物卸売市場調査

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(7月上旬～10月下旬)

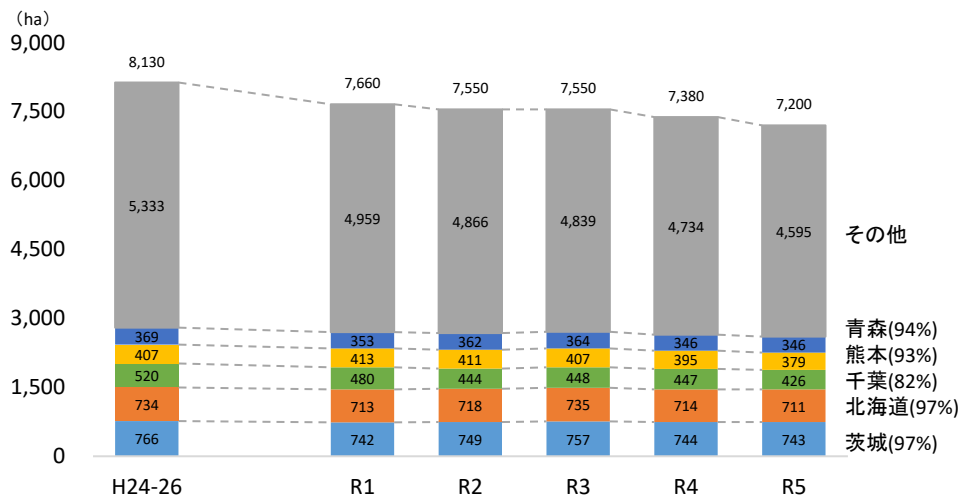


出典：野菜生産出荷統計

夏秋トマトの生産・価格等動向①

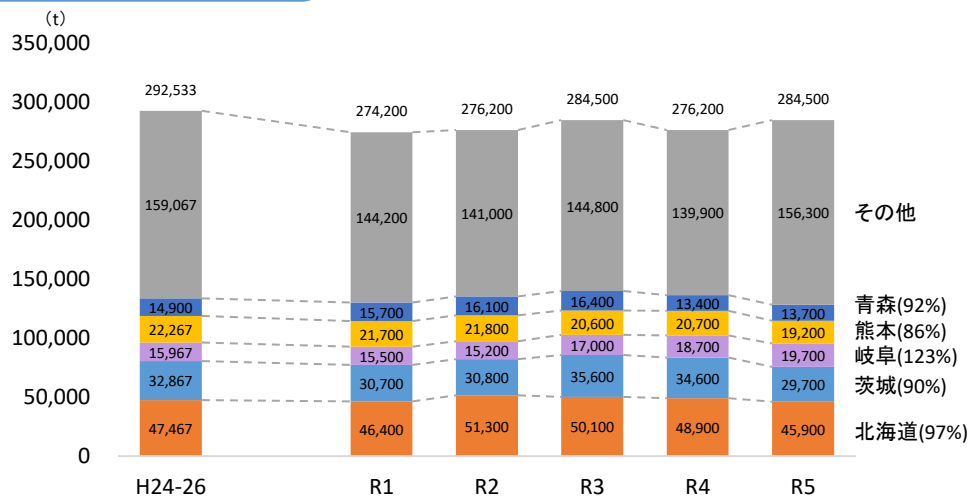
- 10年前と比較し、全体作付面積、全体出荷量ともに減少。
- 輸入は国内産供給量と比較するとごく少量で、減少傾向。主に韓国、アメリカ、カナダ、ニュージーランドから輸入されている。

1. 作付面積の推移



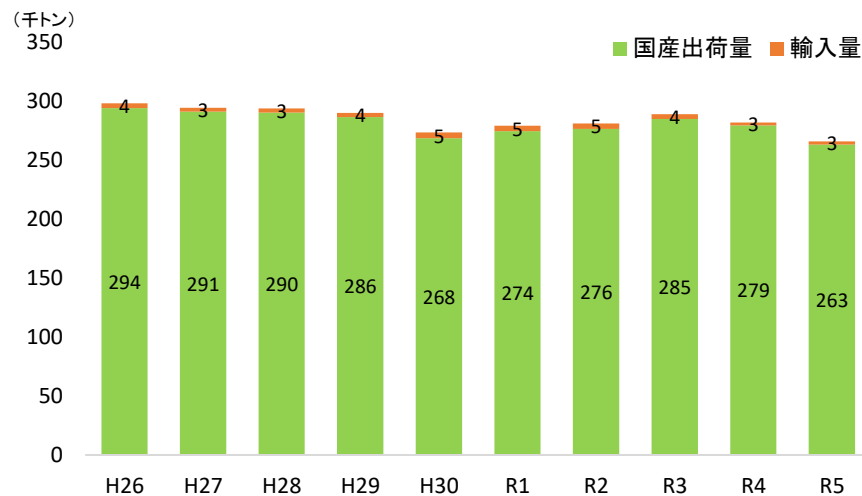
出典：野菜生産出荷統計

2. 出荷量の推移



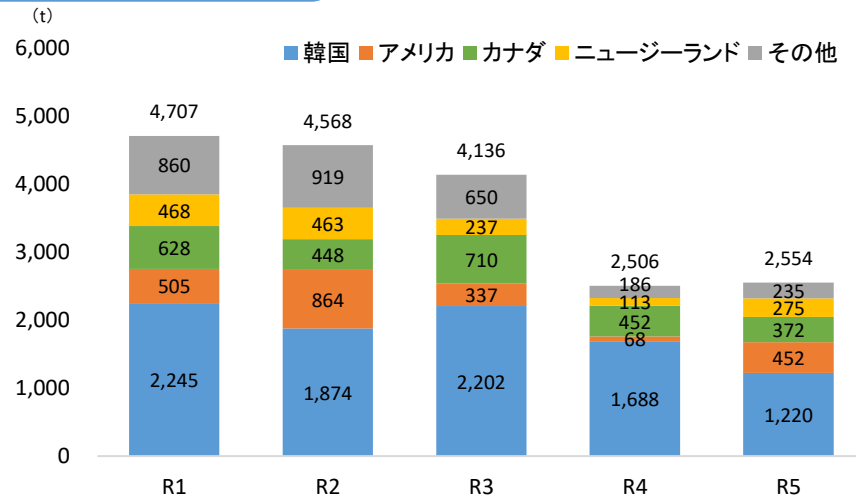
出典：野菜生産出荷統計

3. 出荷量と輸入量



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

4. 輸入先国の内訳

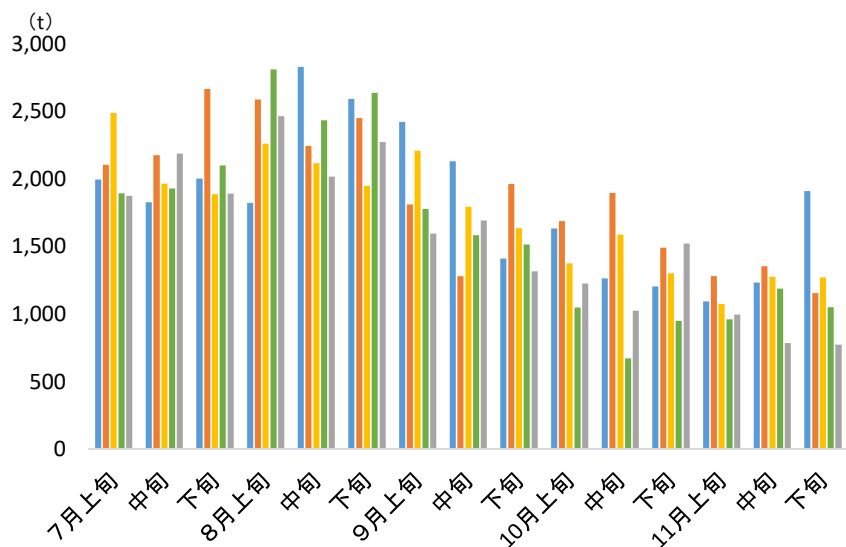
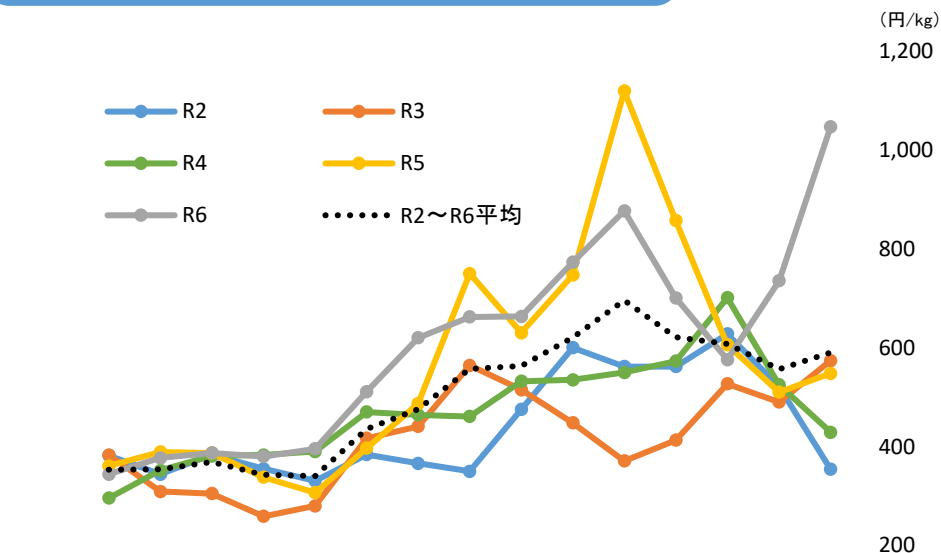


出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

夏秋トマトの生産・価格等動向②

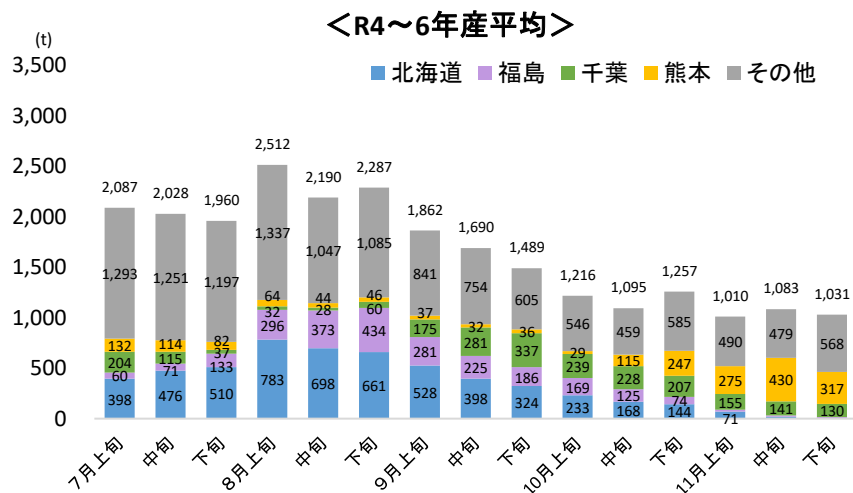
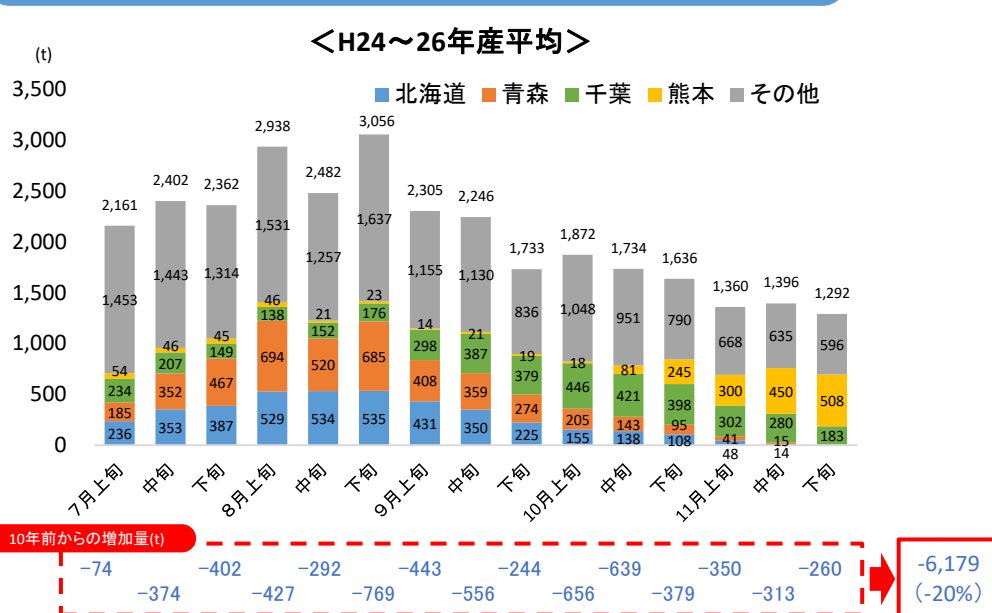
- 9月中旬以降は出荷量が減少し、高値となる傾向。特に令和5年9～10月、令和6年9～11月は、夏場の高温の影響等により出荷量が減少し、高値となった。9月以降の安定供給が課題。
- 東京都中央卸売市場においては、10年前と比較し、出荷期間を通して出荷量が減少し、全体で約2割減少。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：青果物卸売市場調査

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(7月上旬～11月下旬)

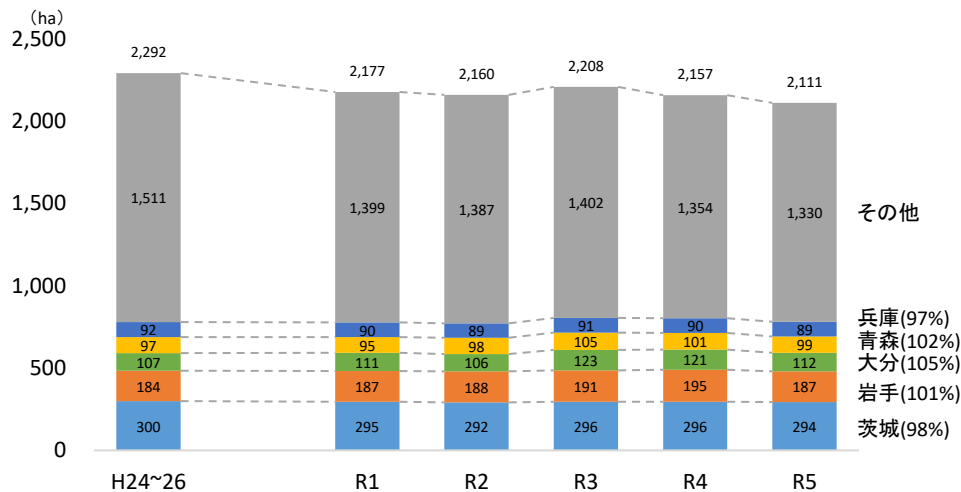


出典：野菜生産出荷統計

夏秋ピーマンの生産・価格等動向①

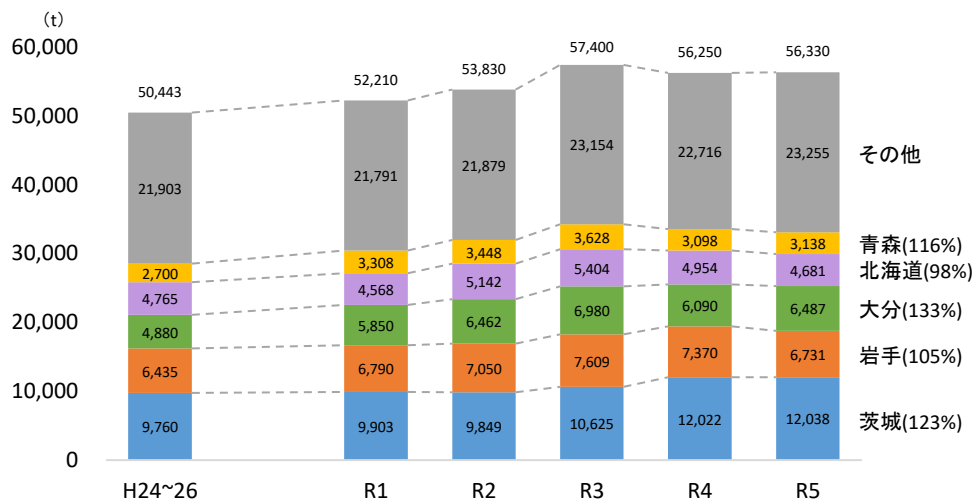
- 10年前と比較し、全体作付面積は微減しているが、単収の増加に伴い全体出荷量は大きく増加。
- 輸入はほぼジャンボピーマン（パプリカ）で、主に韓国、オランダから一定数量輸入されている。

1. 作付面積の推移



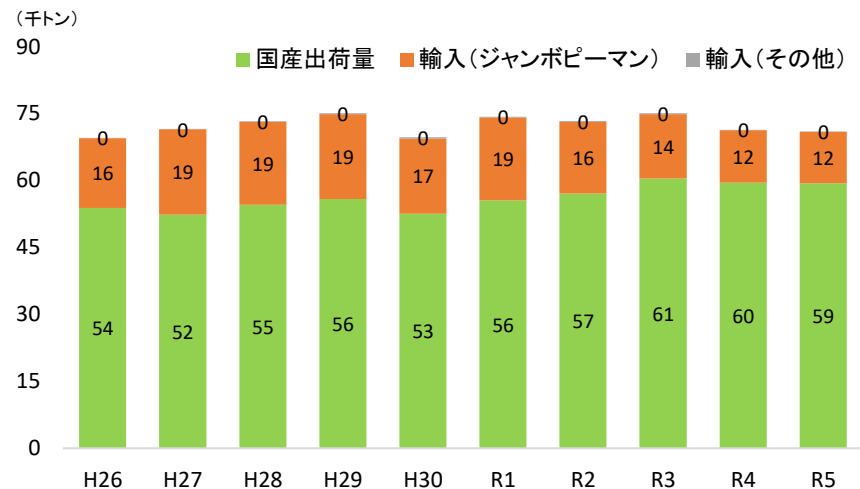
出典：野菜生産出荷統計

2. 出荷量の推移



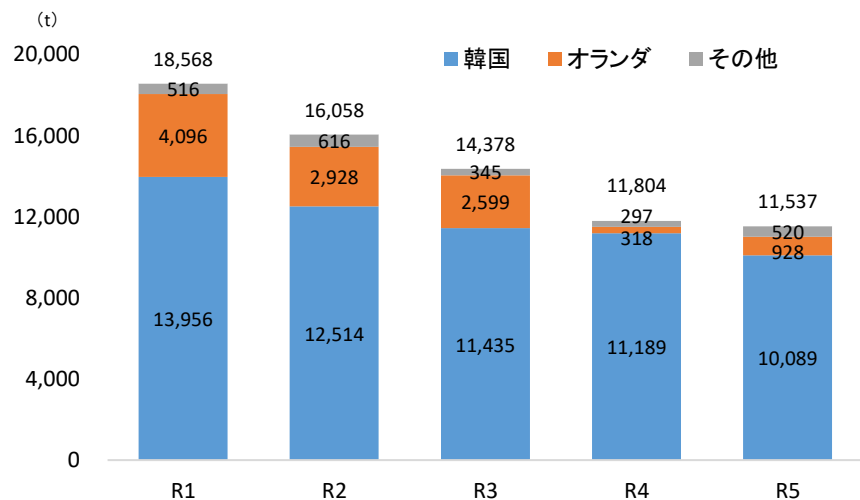
出典：野菜生産出荷統計

3. 出荷量と輸入量



出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

4. 輸入先国の内訳

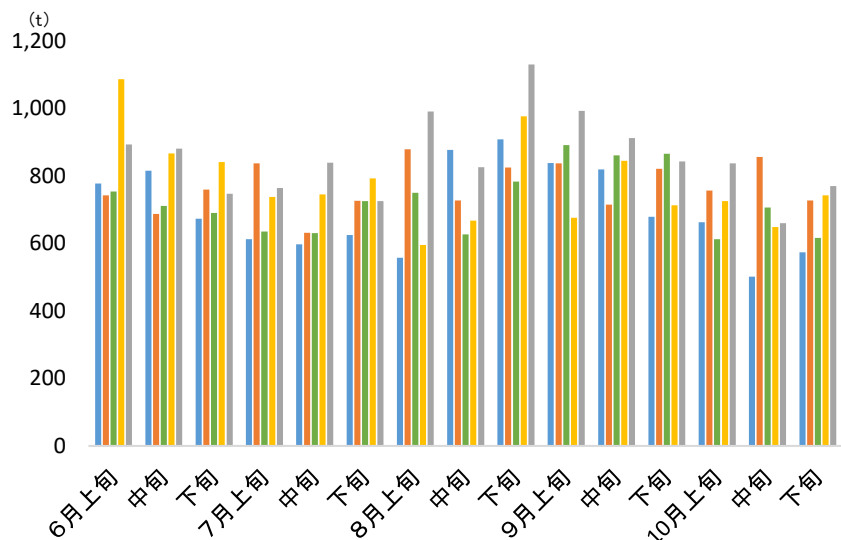
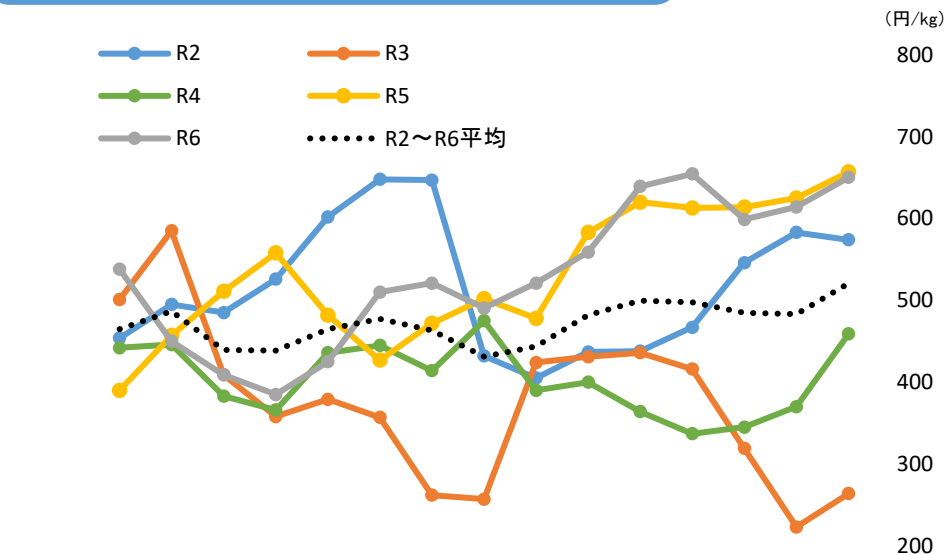


出典：貿易統計・野菜生産出荷統計

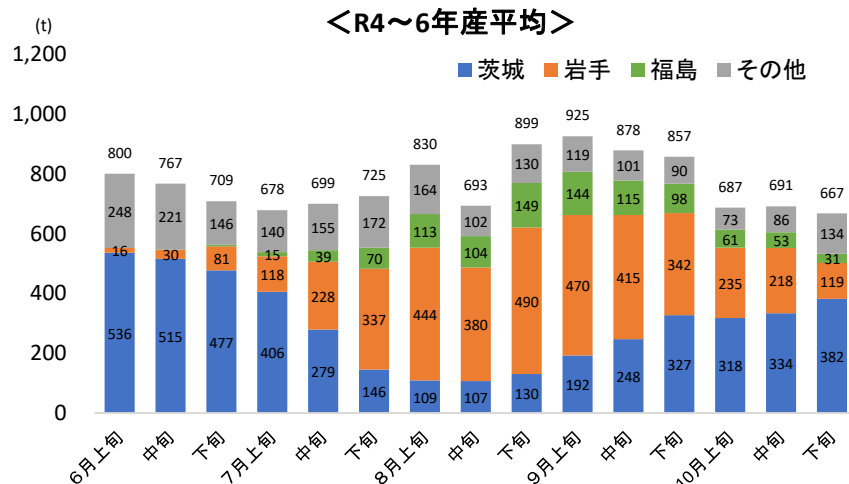
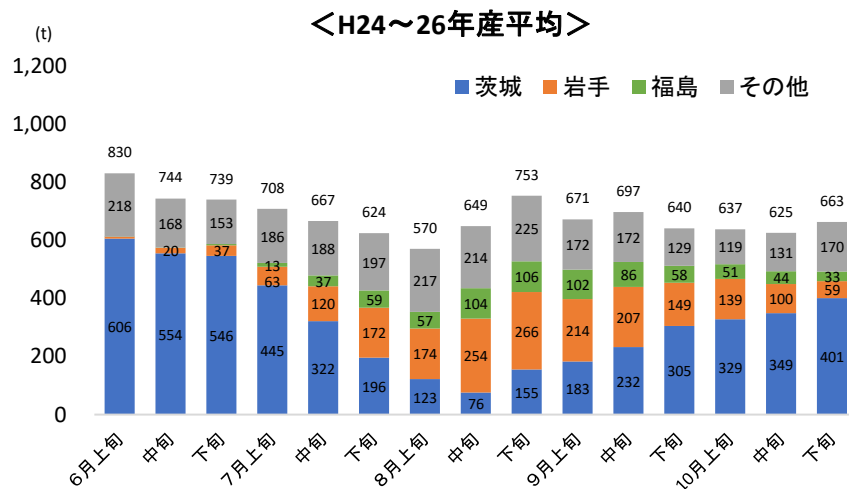
夏秋ピーマンの生産・価格等動向②

- 令和3年は7月および10月の気温高により出荷量が増加し、安値となったが、令和2年は7月の曇雨天等、令和5年、6年は8～9月の高温等により出荷量が減少し、高値となった。9月以降の安定供給が課題。
- 10年前と比べ、東京中央卸売市場への出荷は岩手県産が大きく増加。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



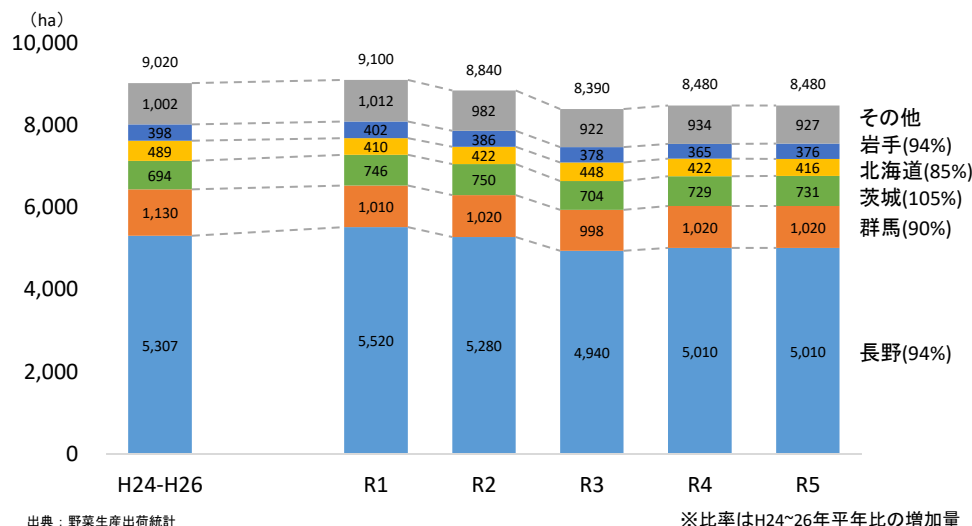
6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(11月上旬～12月下旬)



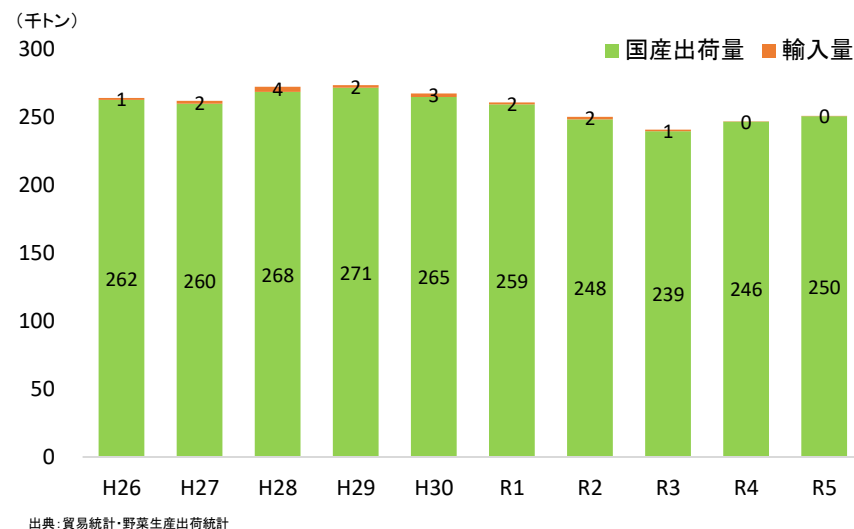
夏秋レタスの生産・価格等動向①

- 長野県産、群馬県産で全体出荷量の約8割を占める。10年前と比較し、全体作付面積、全体出荷量ともにやや減少。
- 輸入量は国内産供給量と比較するとごく少量で、国産の不作による不足分を補うため主に中国から結球レタス、アメリカから非結球レタス(ロメインレタス)が輸入されている。

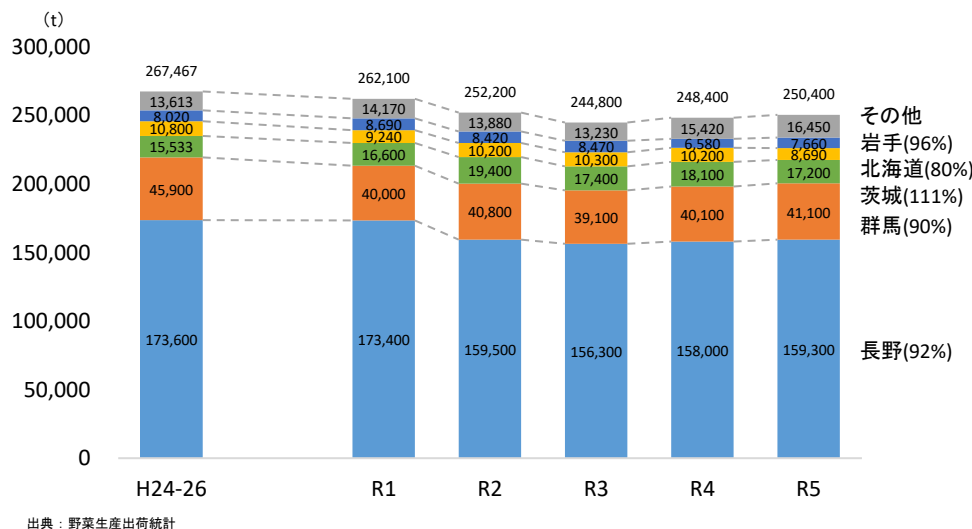
1. 作付面積の推移



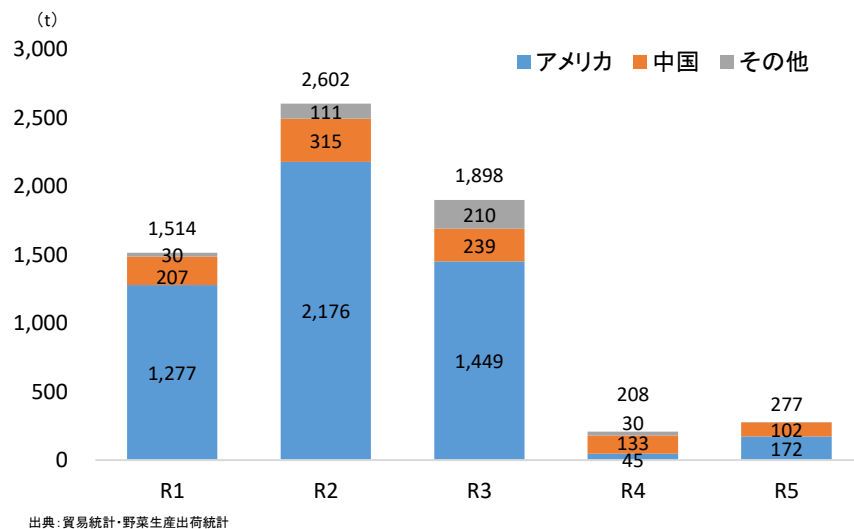
3. 出荷量と輸入量



2. 出荷量の推移



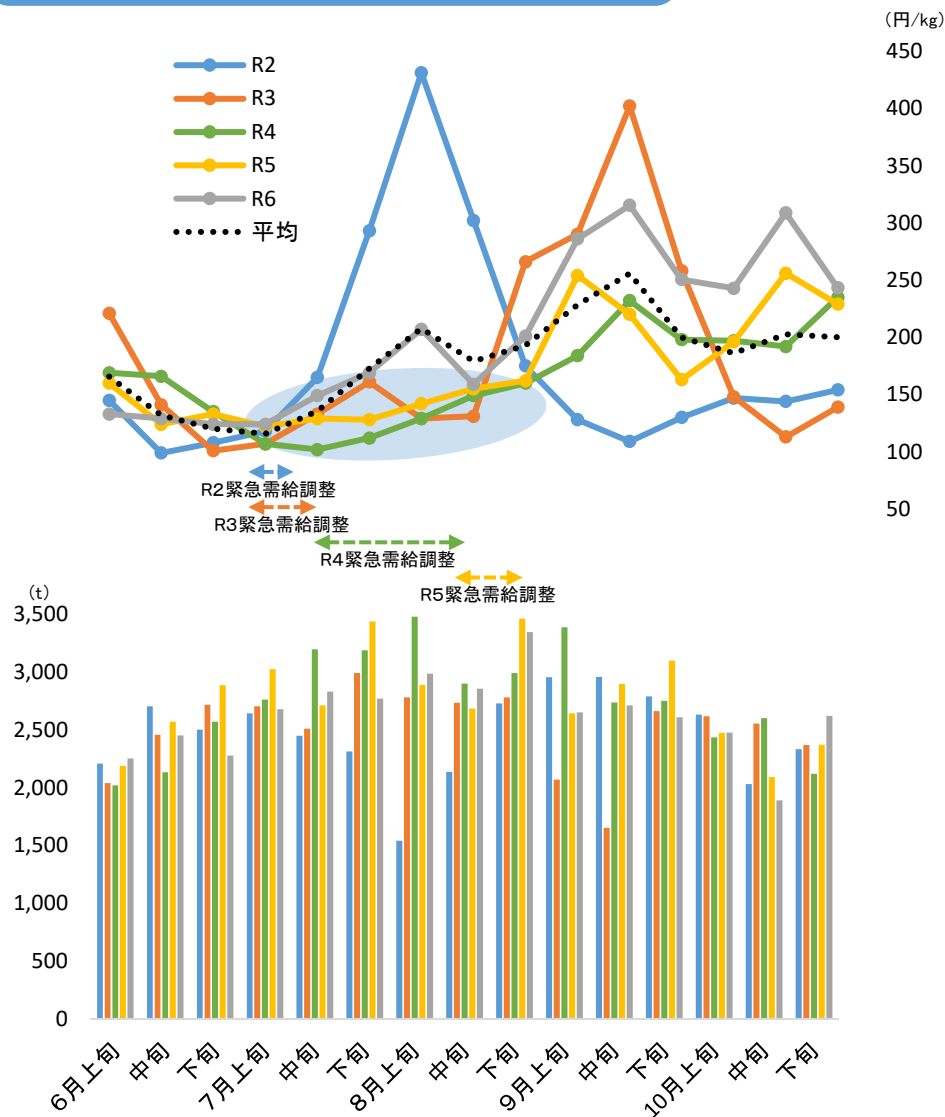
4. 輸入先国の内訳



夏秋レタスの生産・価格等動向②

- 令和2年7月は長雨・日照不足、令和3年9月は曇雨天等により出荷量が減少し、一時的に高値となったが、全般的には気温上昇とともに7月中下旬から出荷量が増加し、価格が低落する傾向にあり、令和2年～5年は4年連続で緊急需給調整事業を発動。
- 10年前と比較し、7～8月の出荷量が大きく増加。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(6月上旬～10月下旬)

